

久慈で活動する

良さと課題

■市長 久慈で活動する上でいいなと思うこととここは改善でないかと感じるものがあればお聞かせください。

■山下 昨年は、お絵描き教室や子ども向けのワークショップを開催しました。麦生のボランティアや会場を貸りたよむの皆さんのにさまざまな面で協力していただきました。周りの人が快く協力してくれるところがいいなと思いますし、助けられています。

周りを巻き込んで

大きな力に



おがさわら かつや 小笠原 克哉さん

市民劇おらほーる劇場の演出を担当。雫石町出身。

難しいと感じる部分は、久慈の皆さんは新しいものに対して一度距離をとるよう感じているところですが、参加する気質というか、興味を持って参加してもらうためには、活動を続けていくことが大切だと感じています。朝比奈さんのアトリエやあーとびる麦生のように、行けば作品に触れられる場所があるといいなと思います。

■朝比奈 久慈では人の良さを感じています。挑戦を応援してくれる人たちがいて、安心して久慈に来ることができました。一人では

できないことに一緒になって取り組める、挑戦しやすい環境があると思います。こうだったらいと思うのは、住む環境について。山根に移住者を呼びたいですが、住む場所が整っておらず心から山根に来てと言えない状況にあります。不便な面もありますが、住む場所が整えば、自然に囲まれた山根に魅力を感じる人がいると思います。

■関上 久慈の良さは、つながりを強く持つてくれる人が多いことです。久慈の活動の原点は、カフェを経営している嵯峨恒宏さんとの出会いからでした。そこからさまざまな人となりが、今があります。

課題と感じる部分は、活動できる場所の確保が難しいことです。若者を応援する「SPOT LIGHT」というイベントを、市民センターを会場に2回開催しましたが、団体利用も多く希望の日を確保することに苦労しました。集客のためにもテレビに出ているようなアーティストを呼ぶ考え

久慈でもやりたい ことができる



せきがみ もとひろ 関上 基広さん

任意団体SPOT LIGHT 委員長。奥州市出身。音楽イベントの企画、運営に取り組む。



■市長 ステージにあげるという案は面白いですね。劇をやっているとなれば、文芸賞の関係者以外の市民からも注目されそうです。

■小笠原 外に発信がないことももったいないです。取り組みを広く発信して、興味を持った人を巻き込んでいけば面白いのでは

今後の展望

■市長 最後に今後の活動の展望について、お聞かせください。

■山下 これまではイベントとして開催してきたお絵描き教室を、月謝制にするなど継続して実施できる形にしていきたいと考えています。昨年は協力隊ポップアップというイベントで、

個展を行いました。ゆくゆくは自分の住んでいるまちなかにアトリエを整備し、現代アートなど普段触れることのない作品を身近に感じてほしいと思っています。

■朝比奈 現在20代から30代の若い人を中心に山根を盛り上げようと、新山根六郷会が立ち上がりました。



■市長 山根やあーとびる麦生に、距離を理由に行つたことがないという話を聞きます。実際に訪れたことがないと良さはなかなか分からない。もっと積極的に足を運んでほしいと感じています。

若い人たちを起点にしてイベントを企画し、山根との交流人口を増やしていきたいです。私は絵の分野で、ほかのメンバーもそれぞれの得意分野を生かし、魅力発信に取り組んでいきます。

市民が集う 芸術の拠点を

劇場に携わりながら、色々な人を活動に絡めていきたいです。おらほーる劇場のこれまでの劇を販売したり配信したりして、面白いと思っただけで参加していただければいいなと思います。

■市長 市としても閉校となった校舎は、活用してほしいと考えています。市民からこんな場所があればと要望はいただきますが、市



くまがい ゆきこ 熊谷 行子さん

芸術村あーとびる麦生理事長。久慈市出身。あーとびる麦生を立ち上げ、運営している

